

# 事業報告書

平成 30 年度

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 国際全人医療研究所

## I 公益目的事業

本年度は、全人的医療の研究・教育のための事業の拡大を図り、その実践者を育成することに力を入れた。学会・講習会の内容を充実させ、昨年度、内閣府より事業追加が認定された研究開発事業及び研究生・見学生制度を実施した。

また、医療施設の設置・運営を公益事業に追加する内容を内閣府に申請した（平成30年9月）。

### 1. 全人的医療の研究・教育・普及及び関連学会、研究会、ワークショップの運営

全人的医療の実践のための基礎的及び臨床的な知識、技術、態度に関する研究を行い、成果を患者（市民）に還元することを目的とし、国際全人医療学会、日本実存療法学会、日本疼痛心身医学会、市民公開講座等を運営、実施した。

#### 【事業内容】

	事業名	日程	参加者数 (人)	会場	大会長など
	第24回日本実存療法学会および 第6回国際全人医療学会	7月21日	75	日本教育会館（東京千代田区）	大会長：当法人代表理事 永田勝太郎
国際全人医療学会・日本実存療法学会	[内容] 大会テーマ：近年の米国流“患者中心医療と全人的医療” 招聘講演：米国の新しい医療と全人的医療（Anzai&Associates 代表 安西英雄） 基調講演：ライフコースと健康～泣いて生まれて笑って生きる～（福島県立医科大学医学部疫学講座教授 大平哲也） 特別講演Ⅰ：健康教育基本法（仮称）の提唱（公益財団法人国際全人医療研究所代表理事 永田勝太郎） 特別講演Ⅱ：病気にならない生活（公益社団法人生命科学振興会理事長 渡邊昌） 特別講演Ⅲ：人間の心と癌細胞（国家ビジョン研究会代表理事 中西真彦） シンポジウム：テーマ：新しい医療としての全人的医療の実践（吉津紀久子, 志和悟子, 別部智司, 立瀬剛志） 市民公開講座：公開講座「患者学」の開催（慶應義塾大学看護医療学部教授 加藤真三） （講演者9名, 座長7名）				
	登録国際実存療法士 資格認定ワークショップ （第8回）	6月30日	15	当法人会議室	主催：日本実存療法学会
	[内容] ・VE フランクル博士の生涯とロゴセラピーの実際 ・症例検討（緩和医療・思春期・生活習慣病・慢性疼痛・PTSD など） [講師] 永田勝太郎（当法人代表理事）、ハラルド・モリイ（ウィーン大学医学部精神医学・心理臨床家）				
	登録国際実存療法士 資格認定講習会 Level-1 （第8回）	9月22日	9	当法人会議室	主催：日本実存療法学会
	[内容] ・実存分析入門～心理療法入門・実存分析入門～ ・実存カウンセリングの基礎と実際 ・ヴィクトール・フランクル博士の生涯と実存分析				
日本疼	第31回日本疼痛心身医学会	11月17日	62	日本教育会館 （東京千代田区）	大会長：当法人代表理事 永田勝太郎

痛 心 身 医 学 会	[内容] 大会テーマ：痛みと温熱・食事 基調講演：慢性疼痛の温熱療法と食事療法（当法人代表理事 永田勝太郎） 特別講演Ⅰ：糖化の果てに～閉塞性動脈硬化症(ASO)に対する治療（江戸川病院血管病センター長／旭川医大名誉教授 笹島唯博） 特別講演Ⅱ：痛み・疲労と和温療法（和温療法研究所所長／独協医科大学特任教授 鄭忠和） シンポジウム：テーマ：生活習慣病としての慢性疼痛（喜山克彦，中野良信，志和悟子） 市民公開講座：生活習慣病としての線維筋痛症（NPO 法人線維筋痛症友の会理事長 橋本裕子） （講演者 7 名，座長 6 名）				
市 民 公 開 講 座	『公開講座「患者学」の開催』 演者：慶應義塾大学看護医療学部 加藤眞三	7 月 21 日	62	日本教育会館（東京 千代田区）	於：第 24 回日本実 存療法学会および 第 6 回国際全人医 療学会
	『生活習慣病としての線維筋痛症』 演者：NPO 法人線維筋痛症友の会 理事長 橋本裕子	11 月 17 日	75	日本教育会館（東京 千代田区）	於：第 31 回日本疼 痛心身医学会

## 2. 国際実存療法士の認定

日本及び国際における全人的医療の高度な水準の維持と向上・普及を図ることにより、市民に最適な全人医療を提供することを目的として、学識・経験及び倫理観が備わった専門職且つ、実存分析療法のできる医師・心理師・看護師等に、日本実存療法学会とウィーンのヴィクトール・フランクル研究所の共同認定資格である「登録国際実存療法士」の認定審査を実施し、資格登録者には英文と和文の認定証を発行している。本年度は、新規の申請はなく、上級資格（シニア国際実存療法士）への申請が 2 名あった。レポート課題および書類審査を行ない、2 名合格した。

資格認定制度発足（2012 年）からの登録者総数は 22 名（内、上級資格 2 名）である。

## 3. 痛みの患者会（日本疼痛心身医学会分科会）

さまざまな病や症状によって痛みを苦しむ患者は多く、また、その臨床に携わる医療職も治療の困難さや限界に直面する。当会は、「清流の会」という名称で、医師や医療職が講師となり、痛みのしくみや治療方法を学び、痛みをセルフコントロールする方法を習得することを目的としている。

本年度は、昨年に引き続き、月 2 回定期開催した。内容は、痛みのしくみや治療方法の講義、また、呼吸法、ピアノ演奏による音楽療法によるリラクゼーション法、患者同士話しを聞き合うピアカウンセリング等を行い、心身を解放する体験を大切にした。

また、参加者の多くは、痛みのために運動を避け身体を動かすことを躊躇するが、痛みの改善や予防には運動は不可欠である。当会で身体に負担の少ない体操を習得し、自宅で継続的に行なった参加者は、痛みがあっても身体を動かすことが可能となり、QOL が向上した。

さらに、講義を 10 回受講し、簡単な確認テストに合格した参加者は、“痛みマイスター”（当会内での呼称）として、同様の悩みを持つ参加者の話を聞くことや、自己の経験談を話す場を設けた。患者同士の話は共感が持て、双方に気付きを得る様子がみられた。グループ療法のダイナミズムが生かされている。参加者数 15 名×24 回＝360 名

## 4. バリントグループワーク

バリントグループワークは、患者中心医療を行うための「バリント方式の医療面接法」を習得し、「治療的自我（therapeutic self）」を高める教育方法である。バリント方式の医療面接法とは、患

者固有の身体・心理・社会・実存性を、患者とともに相互主体的に理解できるようになることであり、全人的医療を行う治療者にとって必要なスキルである。

本年度の開催は、毎月1回（8月と2月を除く全10回）、第2火曜の夕方行なった。参加者は回を重ねる毎に増え、毎回15～20名の参加者があった。参加者は医師、看護師、心理士、鍼灸師、福祉や教育職等の多職種に亘った。ワーク内容は、参加者の中から事例を1例提示し、質疑応答、今後の治療や関わり方について検討した。多職種の視点から意見、アドバイスが得られ、医師によるスーパーバイズを受けることができるため、積極的な参加が増えている。参加者数17名×10回＝170名

## 5. 学術雑誌「全人的医療 Comprehensive Medicine Vol.17 No.1」の発行

学術大会の内容、投稿論文（総説・原著・症例報告など）、学会からのお知らせなどを掲載したジャーナルを編集、発行した。配布先は会員、国立国会図書館、科学技術振興機構等である。また、論文検索サイトの医学中央雑誌、メディカルオンラインにて閲覧可能である。

本年度には、国立研究開発法人科学技術振興機構の論文検索サイトJ-STAGEへの掲載が認可され、2014年発行号（第13巻）～2019年（第17巻）の掲載作業を終え、閲覧が可能となった。

本年度の発行概要は下記の通りである。

●発行日：2019年3月25日、発行部数：300部、体裁：B5判・総頁数103頁

●内容：原著論文1編、総説4編、症例報告1編、レクチャー1編、その他開催案内・報告等

## 6. 技術開発・研究開発事業（平成30年3月、内閣府認定）

日本疼痛心身医学会の分科会「鍼灸医学研究会」の開催を企画・運営した。当会は、鍼灸あん摩マッサージ指圧といった東洋医学的手技療法の効果を科学的に研究し、全人的医療の文脈の中で現代医療に活かす方法を考え、実践していくことを目的とする。メンバーは、永田勝太郎（当法人代表理事）を代表世話人とし、医師、看護師、鍼灸マッサージ師、心理士、薬剤師等のコメディカル、医療機器・薬剤等の研究者、事務局スタッフ等で構成している。なお、研究会の参加者は必ず機密保持誓約書を取り交わすこととしている。昨年度より引き続き、当研究会で開発した「火を使わないお灸」の痛みの緩和効果に関する科学的根拠の解明や、安全性等の検証を行なった。本年2月に研究会を開催し、研究経過の報告をした。今回の結果から、当該お灸の臨床的な効果が確認できたため、今後も引き続き臨床研究を進めることとした。

## 7. 研究生制度・見学生制度（平成30年3月、内閣府認定）

当制度は、全人的医療の実践教育を行うため、研究生・見学生の制度を設け、教育を通じて、全人的医療の啓発・普及等を行うとともに、人材の育成を行うことを目的としている。なお、研究生、見学生ともに、当制度の研修は、医療行為を可能とするものではなく、法令に基づく資格や許認可が必要な行為を行うためには該当資格や許認可が必要であり、その旨を各制度規則に謳っている。

本年4月1日からホームページ等にて公示し、審査、受入れを行なった。本年度は、見学生5名（医師2名、鍼灸師2名、心理士1名）を受入れた。

## 8. ホームページ等を活用した情報発信

学会、講習会等の案内や各種調査・研究活動等の報告、各年の事業活動報告・決算資料、その他の情報発信の窓口としてホームページの継続的な管理・運営を行った。一部、英語頁を掲載した。

## II 会員数

本年度の会員の異動は、新規入会者 6 名、退会者 3 名で、総会員数 139 名（件）となった。  
内訳は下記の通りである。

（人，件）

区分	H29 年度末	H30 年度末	増減内訳
一般会員	131	<b>135</b>	(+4) 新規 6, 異動 1, 退会 3
学生会員	3	<b>2</b>	(-1) 一般会員へ異動
賛助会員	2	<b>2</b>	(±0)
合計	136	<b>139</b>	(+3) 新規 6, 退会 3

## III 理事会・評議員会の開催

### (1) 理事会

第 1 回：平成 30 年 6 月 5 日

- 決議事項 1. 平成 29 年度公益財団法人国際全人医療研究所事業報告及び収支決算について  
2. 理事の退任と選任について  
3. 平成 30 年度第 1 回公益財団法人国際全人医療研究所定時評議員会の招集について  
報告事項 代表理事の職務執行状況

臨時：平成 30 年 6 月 21 日

- 決議事項 1. 代表理事選定について

第 2 回：平成 31 年 3 月 5 日

- 決議事項 1. 平成 31 年度公益財団法人国際全人医療研究所事業計画及び収支予算案について  
2. 平成 31 年度公益財団法人国際全人医療研究所収支予算について  
3. 平成 30 年度第 2 回公益財団法人国際全人医療研究所定時評議員会の招集について  
報告事項 代表理事の職務執行状況

### (2) 評議員会

第 1 回：平成 30 年 6 月 21 日

- 決議事項 1. 平成 29 年度公益財団法人国際全人医療研究所事業報告及び収支決算について  
2. 理事の選任について  
3. 監事の選任について  
4. 評議員の選任について

第 2 回：平成 31 年 3 月 22 日

- 決議事項 1. 平成 30 年度公益財団法人国際全人医療研究所事業計画及び収支予算について

以上